

大島 博 リートリサイタル

Franz Schubert

Schwanengesang

F・シューベルト

白鳥の歌

歌 大島 博

ピアノ 寺嶋 陸也

2022年10月23日(日)

14:30 開演(14:00 開場)

東京オペラシティ リサイタルホール

全席自由: 一般 ¥4,000 当日 ¥4,500 学生 ¥2,000

お問い合わせ: 大島 博 tel. 03-3948-5383

mail: deutsch_mit_spass@yahoo.co.jp

歌曲創作の頂点としての《白鳥の歌》

シューベルト最晩年の歌曲集《白鳥の歌》は、《美しき水車屋の娘》、《冬の旅》と並び、彼の3大歌曲集の一つとして知られています。しかし他の2作品とは異なり、一つにまとまった連作歌曲集ではなく、シューベルトの没後に未発表の作品をまとめて出版された遺稿集です。選ばれた詩もレルシュタープ7編、ハイネ6編、ザイドル1編となっており、曲集全体に大きなテーマの共有がある訳でもありません。ですから詩人ごとに分けて演奏することも可能です。

ただこれらの曲が、シューベルトの歌曲創作の頂点を示していることが《白鳥の歌》の価値を不滅のものにしているのです。雄渾にして繊細、歌謡性に富みながら深い精神性を湛えた歌曲の数々を寺嶋陸也さんのピアノと共にぜひお楽しみください。

大島 博

大島 博 (おおしま ひろし)

熊本県生まれ。中央大学法学部卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学。渡辺高之助、高 丈二、原田茂生、中山悌一の各氏に師事。同大学院在学中の86年、ミュンヘン音大に留学、エルンスト・ヘフリガーに学ぶ。90-91年D. フィッシャー＝ディースカウに師事。95年東京藝術大学大学院博士課程を修了。宗教曲の分野で、初期バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、とりわけバッハの受難曲における福音史家の演奏には定評がある。また、ドイツ・リート及び日本歌曲の演奏にも積極的に取り組んでおり、自主企画によるリサイタルに加えて各地での客演も数多い。96年からは「ドイツ・リートのたのしみ」と題した、ドイツ歌曲を知るためのレクチャーを継続中。2004年からはシューベルトの《冬の旅》演奏会を毎年開催している。近年は、さらに合唱指揮者、発声指導者としても幅広く活動し、ドイツ詩の翻訳も手がける。立教大学大学院キリスト教学研究科、国立音楽大学非常勤講師。

寺嶋 陸也 (てらしま りくや)

1964年生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒、同大学院修了。オペラシアターこんにゃく座での活動や、97年東京都現代美術館でのポンピドー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、03年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価され、06年にはタンゲルウッド音楽祭に招かれボストン交響楽団のメンバーと自作を含む室内楽を演奏した。作曲、ピアノ演奏のほか、東京室内歌劇場やびわ湖ホールのおペラ公演の指揮など、活動は多方面にわたる。オペラ『あん』『グスコブドリの伝記』『ヒト・マル』『ガリレイの生涯』『末摘花』、合唱オペラ『そして旅に出た』、合唱劇『星の王子さま』、『尺八・二十絃箏と管弦楽のための協奏曲』、合唱のための『詩篇第49番』『沖縄のスケッチ』、オーボエ・三味線と打楽器のための『異郷の景色』、古代復元楽器のための『大陸・半島・島』など作品多数。

「大陸・半島・島/寺嶋陸也作品集」(ALCD9026)、「二月から十一月への愛のうた(栗山文昭の芸術2/寺嶋陸也作品集)」(VICS61092)「寺嶋陸也 plays 林光」(NARD5034)「寺嶋陸也ピアノリサイタル～シューベルト3大ソナタを弾く～」(NARC2129～30)など、多くのCDがある。お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師。